



有志竟成

浜松市立北浜中学校
学校だより
令和元年12月10日

「忙しく 時計の動く 師走かな」

12月は旧暦で「師走（しわす）」と呼ばれます。その語源は、年末は僧侶がお経をあげるために街中を走り回っていたという説や、1年の最後になし終える意味の「為果つ（しはつ）」からとする説、四季の果てる月を意味する「四極（しはつ）」からとする説、年が果てる意味の「年果つ（としはつ）」が変化したとする説などがあり、明らかではないようです。明治時代を代表する詩人・正岡子規が「忙しく 時計の動く 師走かな」と詠んだように、年末に向けて何かと慌ただしさを感じるのは、今も昔も変わらないのかもしれませんが、なぜ時計が忙しく動くように感じるのかといえば、今年まだやり残していることと、新たな年を気持ちよく迎えるための諸準備を同時に行うからではないでしょうか。



北浜中では、授業開始1分前と帰りの会前に「黙想」の時間があります。この時間には生徒は座ったまま姿勢を正し、静かに目を閉じます。授業前の黙想は休み時間から授業に気持ちを切り替え、次の授業に気持ちを集中させるためのものです。帰りの黙想は今日1日を振り返り、明日への見通しをもつためのものです。この他にも、集会や避難訓練等、全校生徒が集合・整列する場面でも黙想が行われています。黙想を行うことで、動と静の切り替えがスムーズになり、次の活動に向けて全員の気持ちを揃えることができます。このように黙想は学校生活において大変重要な役割を果たしています。

何かと慌ただしい時期ですが、生徒には今年1年の学びと成長を振り返らせ、目標達成のために今やるべきことに集中して取り組めるよう、全職員でサポートしていきたいと思えます。私たち大人も、忙しく時計の動く師走にこそ少しだけ立ち止まり、身体と心を整える時間を持ちたいものだと思います。

～温かな御理解・御支援をありがとうございました～

令和元年も残すところ1ヶ月を切りました。保護者や地域の皆様には、本校の教育活動に対し温かな御理解・御支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

この2学期には、体育祭・虹色文化発表会という2大行事を始めとし、中体連新人大会、総合的な学習の時間「ライフタイム」（1年地域探検学習、2年職場体験活動、3年幼稚園交流）、中文連展示・ステージ発表など、多くの教育活動が実施されました。北浜中生はどの活動においてもたいへん意欲的に取り組み、素晴らしい成果を上げることができました。また、浜北産業祭や北浜南部協働センターまつり等、地域の行事やイベントにも中学生ボランティアとしてたくさんの生徒が参加してくれました。たいへん嬉しく、頼もしく思います。北浜中生徒はこれらの様々な活動を通して、「あきらめずに挑戦すること」や「日々の努力を積み重ねること」、そして「まわりの人に感謝すること」等、多くの大切なことを学ぶことができました。今年1年をいい形で締めくくるとともに、私たち職員も来年の教育活動に向けた準備をしっかりと整えていきたいと思えます。

＜文責：校長 鈴木信行＞